

活用事例	<b>3 9</b> 授業中に地震・津波が発生した場合の隣接する学校との二次避難場所までの合同避難訓練 <b>【特色】</b> 小学校や地域との合同避難訓練、中学校から小学校への二次避難		
学校名	光市立浅江小学校・浅江中学校		
日時	平成25年12月3日（火）6校時		
場所	浅江中運動場、浅江小運動場	参加者	浅江小児童、浅江中生徒、浅江小教職員、浅江中教職員 浅江地区住民

## 1 訓練のねらい

- (1) 地震発生時の校内における一次避難場所及び二次避難場所への避難経路と避難方法を、生徒一人ひとりに認識させる。
- (2) 小学校や地域の方と合同の避難訓練を実施することで、災害時に小学生や地域の方を含めた地域全体での避難行動の必要性を意識させる。

## 2 訓練の概要

### (1) 訓練想定

授業中に緊急地震速報を受信し、大きな揺れが伝わる。校内の放送機器が使用不可能となるが、ハンドマイク等を活用し一次避難場所（浅江中学校グラウンド）へ避難する。津波被害が予想されるため、二次避難場所（浅江小学校グラウンド）へ避難する。

### (2) 事前指導

#### 基本事項

- ① 地震発生の場合、揺れがおさまるまでは、まず頭を守ること。
- ② お（押さない）は（走らない）し（喋らない）も（戻らない）の徹底。
- ③ 窓ガラス、ドアは原則閉めない。
- ④ 電気は原則消さない。

#### 基礎知識

- ① 光市には津波の危険性が薄いと思われがちだが、光市の津波想定は5mであること。（海拔：正門付近4.3m、南門付近3.4m、浅江小正門23.9mであること。）
- ② 緊急地震速報について説明  
（緊急地震速報は、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。強い揺れの前に、自らの身を守ったり、列車のスピードを落としたり、あるいは工場等で機械制御を行うなどの活用がなされています。：気象庁ホームページより引用）

#### 避難要領

- ① 真剣な態度で訓練にのぞむこと。
- ② 各学年の避難経路確認。（階段のどちらを通るか、出口はどこか、集合場所、隊形）
- ③ 一次避難後は、津波回避のため、二次避難場所である浅江小学校に避難すること。
- ④ 二次避難する場合は、下足に履き替えること。
- ⑤ 一般道を使用するので、交通には十分注意し、横断歩道は速やかに渡ること。
- ⑥ 歩道では右側に寄り、一般歩行者の迷惑にならないようにすること。
- ⑦ 各クラス整美委員は、事前に濡れ雑巾（5枚）を下足箱に準備する。

(3) 時 程

- ① 14:40 各教室で生徒待機。訓練放送までの時間を活用し避難経路や留意点を確認
- ② 14:45 訓練放送

訓練放送。訓練放送。緊急地震速報を受信しました。強い地震発生のおそれがあります。生徒の皆さんは机の下に隠れて指示があるまで待ちましょう。

放送終了後、生徒は机の下に隠れる。



机の下へ避難

- ③ 14:47 副担任がハンドマイクを使用し、生徒へ避難指示

地震の揺れがおさまりました。先生の指示に従い、慌てず静かに整列してグラウンドへ避難してください。

無言で廊下に整列。グラウンドへの避難開始

- ④ 14:50 一次避難場所へ避難・避難者確認
- ⑤ 14:52 二次避難場所へ避難開始  
下足に履き替え、3年生から順に各クラス男女1列で浅江小学校へ避難する。
- ⑥ 15:07 浅江小学校グラウンドに避難・避難者確認
- ⑦ 15:10 浅江小学校児童避難開始
- ⑧ 15:15 浅江小学校児童避難・避難者確認
- ⑨ 15:15 浅江地区連合自治会長 講評
- ⑩ 15:20 浅江中生徒帰校開始
- ⑪ 15:35 浅江中生徒帰校完了

### 3 訓練の成果と課題

#### 【成果】

- ◇ 一次避難場所への避難  
ほとんどの生徒が終始無言で取り組むことができた。また、移動にかかる時間が15分という当初の想定範囲内で行動することができた。
- ◇ 二次避難場所への避難  
地震発生後の津波被害が予想される場合には、二次避難場所として浅江小学校へ避難するという意識付けができた。
- ◇ 放送機器の故障を想定  
地震による放送機器の不具合を想定し、直接呼びかけることで、教職員にとっても良い訓練となった。
- ◇ 小学校と合同での避難訓練  
自分が避難するだけでなく、中学生としての役割をはたす必要性を、生徒に意識させることができた。
- ◇ 自治会関係者の参加  
自治会長に訓練の様子を見ていただき、講評していただくことで、地域防災を意識させることができた。



浅江小学校へ避難



二次避難



浅江地区自治会の方々

#### 【課題】

- ◆ 今回は小中連携を意識した取組となったが、今後は、自治会や地域の幼稚園・保育園などとも連携を図り、地域防災組織づくりに取り組み、地域防災における中学生の役割を研究していきたい。